

No.133

公民館だより

平成20年6月

宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

就任のご挨拶

由良地区公民館長 枝川 隆 亮

由良岳の残雪も暖かい春の陽気ですっかり融け、駅前通の桜が満開の中、四人の園児、三人の児童、十三人の中学生が入園、入学をされました。

このたび飯澤館長の退任により図らずも後任として館長の大事業をお引き受けすることになりました。

責務の重大さを考える時、誠に身が引き締まる思いで一杯になります。

飯澤館長は平成十年から十年間、主事・公民館長として誠実に温厚な人柄と卓越した技量を

もって、公民館運営に貢献されたその長年の功績に深く感謝いたします。

特に、平成十四年に優良公民館として当公民館が全国表彰を受けたことが特に印象に残ります。

昨今、社会生活の多様化と高齢者社会になり、社会教育の場として、また生涯学習の場として公民館活動が非常に注目されています。

由良地区におきましても、人口の減少、高齢化等問題がありますが、住みよい郷土のあり方など生涯学習についての関心が

高まってきていると思います。諸先輩達が長年にわたり築いてこられた由良地区公民館の大きな伝統と名譽を守りながら地区民とともに前進する公民館を

辞任にあたり

晴天に恵まれた由良岳登山は地元を始め近隣市町から多くの参加者が若葉の萌ゆる山頂でふれあいを楽しむ風景はいつもと変わりませんが、一方少子化は顕著に現われ学校再編により地域から学校が無くなるうとしています。

さて私儀この度平成二十年三月末をもちまして由良地区公民館長を退任させていただくことになりました。

在任中は地域の皆様の温かいご支援ご助言を賜り乍ら十年間に亘り公民館活動に携わり今日を迎えられました。

多くの方々との出合い、数多

目ざしながら微力ではありますが懸命に頑張つて力を尽くしてまいりたいと考えております。地区民の皆様、どうか、よろしくご指導をお願いいたします。

飯澤登志朗

多くの貴重な体験を通して意義ある十年間であったと深く感謝し厚くお礼申し上げます。

特に平成十四年度全国優良公民館として文部科学大臣から表彰され、その式後皇居に於きまして天皇、皇后両陛下下拝謁の栄に浴することが出来ましたことは最も喜びとするところです。

これも地域の方々の永年の取り組みが評価されたことであり、重ねて厚くお礼申し上げます。

今後は新館長のもと由良地区公民館の更なるご発展と地域の皆様のご健勝をご祈念申し上げます。辞任のご挨拶といたします。

行事報告

主事 磯田 充亮

◎二月十七日(日)

自治学級

今年二月十五日から京都府立大学生等51名が来由し学外生活デザイン演習(由良の歴史・自然的資材を生かしたエコミュージアムの提案)を行われるのを機会に研修を通じて地域の方々と交流を図り、意見交換の場を計画していましたが、当日は早朝から大雪警報が発令され、府立大学バスの帰路の安全を考え、中止しました。

学生達は山田昭さんの山小屋で地元の方々の指導のもと、由良岳登山入口の案内小屋(未完成)建築の他、コンニャク作り、竹ボウキ、わら細工に挑戦しました。

積雪が初めての学生は雪景色にシャッターを切っていました。

◎二月二十四日(日)

生涯学習講座(人権学習)

今回はキャリアアドバイザー・舞鶴女性問題アドバイザー・森本佳代先生による「^{あなた}女も男も共に創る町づくり」をテーマに、主に男女共同参画社会について講演をいただきました。

主な内容は、

一、事例をあげ今までの女性の立場を説明後、男女共同参画社会とは、今までは女らしさ、男らしさを無意識に思い分業させられてきた。これからは一人一人が個人として大切にされ人間として自分らしく生きる豊かな社会であって、すべての人々が幸せを感じる社会と説明があった。

二、約60年前国連が世界的な差別問題を取りあげ世界人権宣言が採択された。後に女子差別撤廃条約が採択され、日本は一九八五年同法を批准した。

別撤廃条約が採択され、日本は一九八五年同法を批准した。

国籍法、民法が改正され、新しく男女雇用均等法ができて(後からセクハラ法を制定)又、男女共同参画社会基本法が制定され、女性の地位向上施策が公開された。

三、女性差別撤廃条約の内容は英語版だが、日本語に訳した絵本「ひまわり姫」が出版されている。(一部朗読された)

四、宮津市は新たに「新ウインドープラン21」が進められている。女性のための施策として公表されている。必ず実行して、自らも行動してほしい。最後に国は地域住民のつながりを重視している。ご近所の底力を発揮し男女が一緒になって持っている能力を十分に発揮できる社会を作ることが大事だと結んでいました。

参加者は、改めて女性の社会進出の重要性を学んだと思う。

◎四月二十九日(火) 昭和の日
第42回由良岳登山

集合場所に居ると男の人が「新聞を見て網野から来た80歳です。」と一番に駆け付けてくれました。登山はこの一声から始まりました。

今回は、井上宮津市長を始め多くの参加がありました。なかでも家族づれの参加が目立っていました。

舞鶴からの参加グループに、詩吟クラブのメンバーがあり、山頂で詩吟を合吟し、その力強い美声は山々にこだましていました。

山頂には舞鶴側(漆原)から整備された登山道を登られた方も多く見られました。

今年178枚の登山証明書を発行しました。

今年も登山の前日(22日)に由良観光組合、ボランティアの方に山道の倒木切除、頂上の熊笹の刈り取りをしていただきました。

ありがとうございました。

就任挨拶

由良自治連合会長 栢田益一

平素は地区民の皆様には、自治会活動に格別のご高配とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

前野村孝行会長の跡を引き継ぎ平成二十年度・二十一年度の由良自治連合会会長を務めさせて頂き、どうかよろしくお願いいたします。

由良地区の平成二十年度末の世帯数は四九〇・人口は男五七六・女六八五・合計一、二六一人であり、六十五歳以上の人が人口に占める高齢化率は三九%と極めて高く、少子高齢化が進展しています。

そのような中で、新聞報道でもご承知のとおり小中学校等の再編問題が浮上しております。幼稚園、小学校とも栗田へ

統廃合が「宮津市教育・保育施設再編検討委員会」から提言されています。この問題は、六月下旬から七月に地元説明会が開

催されることとなっておりますので、多くの皆さんとともに、当面する地域の最大の問題として考え、幼稚園八名、小学校三十五名の子供達にとっても、地域の将来にとっても最善の方法を考えていかなければなりません。その他にも、西部地域荒

廃水田農地約一〇分の整備問題や下水道整備の問題等、長年解決できないままの懸案事項が、問題解決の糸口さえ見出せないまま残っております。まずは、この問題の現状認識と理解を深

めるための地域会議を立ち上げ勉強会をしていくことが、問題解決の路ではなかるうかと考え

ております。

一方明るい話題としては、昨年由良地域の全組織が協力し、地区民のご支援をいただき、由良地区最大のイベント「第一回てんころレース大会&楽市」が開催され、天候にもめぐまれ成功裏に行われました。当地域の環境に適合できるようなイベントの内容を検討し、定着させていくことが、今後、由良地域が元気になる源であると考えております。

また、医師不在で医療過疎地域でありましたが、宮津市当局のご尽力により、赴任いただく堀川先生の地域医療に対する深いご理解と当由良地域の環境を大いに気に入っていただいたことに伴い、市立由良診療所(仮称)が十一月に開設の予定となっております。住民の健康に対する大きな不安が解消される見通しとなりましたことは、大変明るい大きな話題であります。

六地域の各自治会長さんと



山頂の草刈り作業

ともに、由良の現状・問題点を理解し合いながら、この地域がよりよい地域社会となりますよう、微力ではありますが、この二年間頑張ってきましたが、この思っておりますので、皆様方のご協力をいただきますようお願い申し上げます。

「自信をつけさせたい」

由良小学校長
由良幼稚園長

山本文雄

「井の中のかわず、大海を知らず」

昨年、地域の方に由良小学校

由良幼稚園の児童園児のことについてアンケートをさせていた

「井の中のかわず、大海を知らず」

私自身も先輩として宮津市民

としてみても、そう感じていました。

しかられたり、注意されたら

すねてしまったり、小さくなっ

ドッジボールを見ていても応用

力のある児童が少ない。

これは、井の中のかわずだ。

これは、井の中のかわずだ。

井戸の外には、広い世界が広

がり、いろいろな人達がいて、

いろいろな考えがあり、いろい

ろなチャンスもあることを知ら

やることだと思えます。

「自信」なんて簡単につけられ

ません。

ほめて、認めて、はげませば

気持ちよく動きます。働きます。

今の時代なら、具体的に、こ

まかく、本人の良さ、すばらし

さをほめてやることです。

しかし、ほめてばかりで力が

つくわけ değildir。努力、練習

望んでいます。

子どもの仕事は遊ぶこと、よ

く学ぶこと、お手伝いをするこ

とです。

親は、いいかげんな勉強をし

ておれば、しかりとばせる気迫

と自信をもてる親になりたいも

のです。

由良小は、本年度、国語の力

が弱いので、本読みをがんばつ

たり、色々なことばに関心を

もったりして、とつ然の質問や、

感想をきかれても、はつきり言

える児童を育成します。

地域の中でも、子ども達に声

をかけたたり、聞き上手な人に

なったりして、地域あげての国

語力向上にご支援ください。

「朗読の声が聞こえる由良の里

本気で取り組む 国語力」

うれしいねみんなの笑顔

わらい声

(人権標語優秀作品小学校2年生)
宮津市人権啓発リーフレットから

チャレンジ

栗田中学校長 澁谷 眞了

四月の人事異動で栗田中学校に赴任しました澁谷です。前任校は養老中学校で、住まいは旧加悦町です。微力ながら、伝統のある栗田中学校の益々の発展を目指し頑張りたいと思いますので、皆様方の御支援の程お願いいたします。

私が由良で思い出すのは、今から十数年前に福知山の養護学校に勤めていたときに、海水浴に何度か来たことがあります。由良ヶ岳に登ったこともあり、楽しい思い出として懐かしいです。

さて、学校では、二十年度が始まって二ヶ月が経とうとしていますが、始業式に子どもたち二つのことを話しました。一つは、何事にも熱心であれという事です。学習にしても運動

にしても、中学校の三年間は大きく伸びる時ですが、それだけに、取り組む姿勢によって結果も違ってくるし、何よりも一生懸命に頑張ることが大切なことです。一人一人が、胸に熱い心を持って、熱心に取り組むことで成果も得られますし、仮に結果は伴わなくても、今後の人生で役に立つことと思えます。二つ目は、環境を大切にしますと、身の回りに気を遣うことが出来る人になって欲しいと思います。栗田中学校では、玄関にはきれいな花が植えられ、生徒たちによって水やりが行われています。登校した子どもたちはもとより、来訪される方々をほっこりした気持ちにさせます。また、一日は挨拶に始まり、

挨拶に終わるとも言えますが、挨拶も言えない元気のない生徒がいれば、「どうしたの」と言える子ども同士、生徒と教師の関係が出来ているということ、とても良いことで、みんなが良い気分になって、学習や運動に頑張れると思います。そんな、環境を作っていきたいし、周りに心配りが出来る気持ちのやさしい生徒や教職員でありたいと考えています。栗田中に来て、間がないのですが、生徒も先生も、一生懸命だと思えます。周りのみんなが頑張っている姿を見ると、私も心が熱くなり、何か出来ることを頑張ろう、何かにチャレンジしようという力をもらえるような気がします。子ども達の、あるいは地域の学校として、楽しくて安心して行かせられる学校、子どもたちの健全育成を願いながら、皆様方に信頼され、支援がいただける学校作りを推進してまいりたい

いと思っておりますので、御鞭撻・御支援の程お願いいたします。皆様とともに頑張らせてください。

健康メモ

油断大敵

虫歯がおこす

いろいろな病気



六月四日からは歯の衛生週間。この機会に家族、特に子どもの歯の健康診断を。虫歯を軽く見ていると、その中の色々な細菌や毒素が、体の他の部分にまで病気をまき散らします。小さな虫歯でも直ぐに治療することです。また歯槽膿漏の原因となる歯石も、定期的に取り除くようにしたいもの。もちろん毎食後と就寝前には必ず歯をみがき、外出先では食後、水で口をすすぐなど、虫歯予防の心掛けもお忘れなく。

追悼

元由良地区公民館長山下清一氏は、永く闘病生活を余儀無くされご家族の手厚い看護も空しく、去る三月三日永眠されました。享年七十七歳でした。

山下氏は、平成三年から公民館主事、平成六年から平成九年まで公民館長として地域振興にご尽力されました。

「森ヶ鼻道のKTR踏切から仰ぎ見る由良岳は、東は舞鶴境まで西は栗田境まで裾の尾を上げ……(中略)緩やかなスロープは、いかにも大山らしくゆったりとした山容を誇り、春は萌える若葉、秋の陽に輝く黄や紅葉は私の気に入っている景色……。」これは公民館だよりNo.94(H6・12)に山下氏が寄せられた序文の一節です。

生前の山下氏のおだやかで豪気、他人に接する温かさを自ら書き残されたような気がしてなりません。故人のご功績を偲び心からご冥福をお祈りいたします。

付記

山下清一氏のご逝去に際し、ご遺族から多額のご寄付をいただきました。

ご趣旨を尊重し、公民館活動の充実の為有効に使用させていただきます。



絵・三森 明

魅力ある婦人会を求めて

由良婦人会長 岸 田 弥 生

毎朝のニュースは何処かで人の心を忘れたような事件ばかりで胸が痛みます。

安心、安全な社会を築くために、人の和でお互いがお互いのために、みんなが協力して住みよい地域づくりに、地域のレクリエーション大会やイベントのお手伝いも地域の担い手として欠かすことのできない役割を婦人会にも大きく必要とされています。

私達の出来ることを足下からと毎年活動して来られますのも地区の皆様のご協力の賜と感謝申し上げます。

四月より新メンバー役員でのスタートとなり、今までもその時必要なことを課題として取り組んでこられました。今年度は年々会員の減少に伴い支部自

体の存続が危ぶまれる地区もあり婦人会活動も危惧されています。

期待される地域活動を役員共々模索し、原因と対策について全会員の意見を反映したくアンケート集計に基づき総会時には、沢山の意見をいただきました。

仕事と家事の両立、子育て、家族の介護に、農業にも忙しく他団体役も持ち、時間のゆとりが無い上に本部役員になると負担がかり入会していただける若い人がおられない支部もあり、でも、人とのふれあい、知り合いになれることの楽しみと生涯学習では共に学び合える場として婦人会にはあるという声も寄せられています。

対策として時代に合わせた活

動に変える。誰にでも気軽に無理なく参加できる婦人会を目指すために、本部役員体制、参加行事負担を見直し各地区自治会とよい関係になり、会員以外の方と一緒に活動することで、より効果を挙げる。全体活動よりも支部別の方が組織力が増すのではの声も多いです。会員増加のためにも独自の楽しく学べる企画を考える。

役員も会員も一体となり婦人会の行く末に危機感を持って問題に取り組みようとしていることは、一歩前進と思えます。

PTA活動方針について

由良幼小学校PTA会長 吉岡隆司

風薫る、さわやかな季節となりました。

由良の地域の皆様方には、日頃より、由良幼小PTA活動にご協力頂きまして、大変ありがとうございます。

また、他団体役員の方からも今後のあり方に方策案等のご指導や助言もいただいております。

今、地域の活性化のためにも楽しく無理なく参加できるように、どのような結果、成果をもたらすかは、わかりませんが、前向きに一つずつ解決して行かなければならないと考えております。

そのためにも、諸団体や地域の皆様の一層のご理解ご協力を宜しくお願い申し上げます。

さて、今年度のPTA活動方針は、

針は、

『豊かな心を持ち、たくましく生きる 園児・児童の育成』

と致しました。これは、由良の地域性に合った、とても良い方

針であると思っております。

由良の海、川、山に囲まれて生活している子供たちは、自然に優しく、大きな思いやりの心が育っている様で、みんな仲良くしている姿は、とても微笑ましいものです。

ですが、やはり近年の幼児童の減少によって、いい意味での競争心や自立心が欠けているように感じられます。競争心や自立心は、これから成長していく過程で、大切な事だと私は思います。

そこで、どうしたら良いのか、と考えたとき、大事なことは、
『負けへんで！』

と一生懸命何かに取り組むことだと思っております。それは、勉強でも運動でも、何であっても良いのです。

「ほく、わからんし。」

「私、しんどいし。」

ではなく、がむしゃらになつてみる。周囲の人に伝わるくらい、夢中に頑張ってみる。そうすれ

ば自分に自信が湧き、簡単には諦めない心が身に付く。そしてそれがたくましさにつながるのではないかと、私は信じています。

しかし、子供にいくら言ってみても親が手本にならないと何も変わりません。私たち親も、子供達と一緒に頑張ってみましょう。そして、先生方と協力し合い、さらに地域の方々のお力添えがあれば、由良地区の子供達は、どこへ行っても大丈夫だと私は考えます。

地区の皆様、今後ともご指導、よろしくお願い致します。

最後になりましたが、地域の皆様方には、子供達の登下校の際には、優しく見守っていただき、本当にありがとうございます。由良地区の子供達を、私たちも、あたたかくはぐくんでゆきたいと思えますので、今後ともご協力の程、かさねがさねではあります。よろしくお祈り致します。

栗田中学校への日頃のご支援 ご協力ありがとうございます

栗田中学校PTA会長 渡邊利行

すがすがしい季節になってまいりました。由良地区の皆様には日頃から資源回収、体育後援会賛助会員と様々な活動に温かいご支援ご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、栗田中学校で先日授業参観がありました。一年生は36人と大人数ですが、最後尾の生徒が身を乗り出すようにして真剣に話を聞く姿が印象的でした。二年生は音楽の授業で男女とも大きくのびやかな歌声を響かせ、聞いているこちらの心が豊かになりました。三年生は今年から二クラスに別れ、少人数の中で集中した学習を続けていました。どの学年も学習文化スポーツにと頑張っているのを感じました。

そうした頑張りは一朝一夕

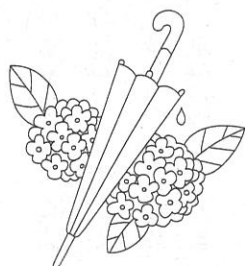
に出来るものではなく、やはり子どもからの日々の生活の中で培われたものが根っ子にあつたのだと思います。それが先生や親御さん地域の方々のお力添えで花開いてきたのだと思います。そう思った時に以前読んだ本の一節を思い出しました。

少し紹介させていただきます。人生、どう生きるか、どのようにふるまい、どんな気持ちで日々を送ればいいのか、本当に知っていなければならぬことを私は全部残らず幼稚園で教わった。◎ずるをしないこと◎人をぶたないこと◎使ったものは必ず元の所へ戻すこと◎散らかしたら自分で後片付けをすること◎人のものに手を出さないこと◎焼きたてのクッキーと冷

たいミルクは体にいい◎釣り合の取れた生活をする事ー毎日少し勉強し、少し考え、少し絵を描き、歌い、踊り、遊び、そして少し働くこと◎毎日昼寝をすること◎おもてに出る時は、車に気をつけ、手をつないで、離ればなれにならないようにすること。人間として知っていなければならないことはすべて何らかの形で触れてある。どれなりと項目を一つ取り出して、大人向けの言葉に置き換えてみる。それを家庭生活やそれぞれの仕事、国の行政、さらには世間一般に当てはめてみれば、きっとそのまま通用する。世界中の人々が三時のおやつにクッキーを食べてミルクを飲み、ふかふかの毛布にくるまって昼寝ができたなら、世の中どんなに暮らしやすいだろう。あるいはまた、各国の政府が使ったものは必ず元の所に返し、散らかしたら自分で後片付けをすることを基本政策に掲げて、これ

をきちんと実行したら世界はどんなに良くなるだろう。それに、人間は幾つになっても、やはり、おもてに出たら手をつなぎ合って、離ればなれにならないようにするのが一番だ。(ロバート・フルガム著『人生に必要な知識はすべて幼稚園の砂場で学んだ』)

栗田中学生が、友達同士仲が良く、それぞれも落ち着いて毎日が送れるのも、由良幼稚園の砂場で学んだことが基盤にあつたのでしよう。そして、地域の皆様の温かいこころ配りの中で育つてくれたことで、充実した『今』があるのだと思います。そのことに深く感謝を申し上げますと共に、更なる発展に向けて今後ともご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。



由良子供会連絡協議会会長に就任して

由良子供会連絡協議会会長 中西達也

日頃は由良子供会活動に暖かいご支援とご協力をいただきありがとうございます。

本年度の由良子供会連絡協議会会長の大役を務めさせていただくことになりました。正直なところ自分の子供の事で精一杯な私がこのような大役を受け不安で一杯です。何分慣れない立場ですが、私に出来ることは、一生懸命務めていきたいと思っております。皆様のお世話になります。どうぞよろしくお願致します。

この由良地区も少子高齢化が進み子供の数が年々減ってきております。数年後には由良地区の幼稚園・小学校が無くなる話も出てきています。

その為、主役の子供達が少なくな

くになり子供会独自の活動が困難になります。今後は、由良小学校PTA・公民館・婦人会等と連携を密にし「ふれあい」を大切に子供会行事を考えていきます。

また最近では、子供に関わる痛ましい事件、事故が増えていきます。子供達には「自分の身は自分で守る。」信念を教え、地区の皆様の御協力を得て、子供達を守り育てていきたいと思っております。

まだまだ解決していかなくてはならない問題はありますが、子供会活動は初めてなので、一生懸命頑張つて務めさせていただきます。

皆様の御協力をいただきますよう、よろしくお願致します。

第42回 由良岳登山に参加した子どもたち

「つかれた山登り」

五年 白矢翔吾

今日は、山登りがありました。さいしよに、ラジオ体操をしました。登りはじめたときは、友達についていけたけど、ちよつと登ったらつかれました。でも「がんばろう」と思いました。

あるいていたら、つつ鳥のなき声がかきこえてきました。あるいていても風がふかなかつたので、ちよくあつかったです。

ちよう上についてちよつとしたらべんとうを食べました。おいしかったです。

さいしよに、東に行ったので次に西に行きました。登っていったら工事中のかんばんがあつたのでだいじようぶかなと思つたけど行きました。

ずつとあるいても道ばっかりだったのでかえりました。

おりているとちゆうにお茶がなくなつたのでどがかわきました。おりていたら木にひつかかってこけそうになつたけどなんとかこけませんでした。下につくと証明書とおかしをもらつてうれしかったです。つかれたけどすごく楽しかったです。

「由良がたけ登山」

五年 蒲原穂香

四月二十九日は、由良がたけ登山の日です。私は今年で七回目の登山になります。

小さい時は、登るのに必死で、草や木を観察するよううもありませんでした。でも今年、わらびを見たり、いろんな鳥の声を聞きながら登りました。中でも、教頭先生が言っておられたつつ鳥の声を聞くことが出来ました。その声は、低い声でおと

なしそうに、

「ほほ、ほほ、ほほ。」

と、鳴きます。

そしてついにちよう上に着きました。今までは、お弁当当を食べている人が多く、食べる場所をさがすくらいでしたが、今年、場所を選べるくらいスキスキでした。時間を見ると、九時五十六分でした。去年より二十分くらい早く着きました。

おやつを食べていると鉄橋を走る汽車が見えました。お母さんが、

「おもちゃみたいやなあ。」

と言いました。私が、

「全部人間が作ったもけいみたいやな。」と言いました。

下山する時、息はえらくなかつたです。でもひざが、がくがくして外れそうになりました。でも登りよりは楽でした。

とうとうゴールに着きました。今までは、百番だいだったけれど、今年は三十四番でした。自分でもびつくりして、思わず

「ヤッター三十番だになったん初めてや。」

とさけびました。

来年も登って、十番だいを目指したいです。

楽しかったゆらがたけ登山

五年 稲垣卓哉

四月二十九日火曜日にゆらがたけとざんがありました。

さいしよに学校に集まってじゅんびたいどうをしていきました。

つぎに友達といっしよにどんどん登っていきました。そしてらさいしよはあまりきゆうじやなかつたのに2合目くらいになつたらきゆうになつていのが分かりました。そしてまたどんすすんでいくと、すぎの木ががけの所にはえていました。

ほくはそのがけをみて、「すごく高いところまで来たんだなあ」と思いました。でも、こ

のさきちようじようとして書いてあつたのでほつとしました。

そしてどんすすんでいったらちよう上につきました。ぼくはまいづるや由良を見て「すごくきれいだなあ」と思いました。つかれたけどちよう上までいけてよかつたです。

つぎに天橋立が見える所まで行きました。けど道が分からなくなつたのでやめました。

さいごにスタートちてんにもどりました。すごく急だつたけどスタートちてんにもどれてよかつたです。今日はすごく楽しかつたです。また来年も行きたいです。

「由良がたけを登った」

五年 中西拓海

四月二十九日に由良がたけを登りました。今日は、二回目の登山でした。登り始めてもうつかれてきてちよつと休みました。何回も何回も休んだり登つ

たりしていました。7合目ぐら

いで水飲み場があつてのみました。つめたくておいしかつたです。それでまた登ってやつとちようじようにつきました。べんとうを食べてから西に行きました。広い所があつて道にいて友だちと遊びながら歩いているとちよつと長くて西に行くのはやめました。おりるときはいっぱいこけながらおりました。そしてやつとおりれました。おりてきたじゅんばんは、23番でした。去年よりはやくおりれてよかつたです。また登りたいです。

由良ヶ岳を登って

四年 吉岡直人

4月29日火曜日に、由良ヶ岳に登りました。

さいしよは、学校に集合して、ラジオ体操をし、しゅっぱつしました。一合目は由良ヶ岳をちよつと登りました。上つたり

下ったり近道をして二合目、三合目、四合目というふうにごんごん登っていききました。四合目は広くて休む場所があったので休みました。休むとまた行きました。七合目でいっぱい水にく道のしるしがあつて、

「下山するときによるか。」

とお兄ちゃんが言つてぼくは、

「うん。」

と答えました。ちよつとすすむ

と八合目があつて次の九合目で

ちよう上がみえると、

「ちよちよつとや。」

といつて走りました。ちよう上

につくとすぐおべんとうをたべ

ました。たべたら、おかしをた

べて下山しました。いっぱい水

で、あついなあと思つていた手

をひやしました下山しはじめまし

た。いっきに下りていったので

落ちそうになると

「うわ。」

と言つて助かつたと思つと

「ああよかった。」

と言いました。ゆつくり下りて

いってこくみんしゆくしやのところにつくと登山しようめいしよとおかしをもらいました。それで、

「帰るか。」

と言つて帰りました。来年も由良ヶ岳登山にさんかしたいです。

登山して

四年 田村遥奈

今日ゆらがたけにのぼりました。

はじめは、らくだったけどだんだんきつくなつて、つかれました。なんども休けいしながら7合目までなんとかいきました。

次に、いぱい水にいって手をつけたらきもちよかつたです。

そしてかえろうとおりました。すべつて、お父さんにつかまりながらおりました。と中の4合目でおべん当をたべました。わたしはおにぎりを4つた

べました。そしたら、おなかがいっぱいでえらかつたです。しゅっぱつしておりはじめた。それいちゃんにあいました。そしたら妹のながれいちゃんといっしょに早くいってしましました。

そして、やつとのことで下ま

残虐！鳴門海峡で『宝塚予科練習生』

が敗戦その前、敵機の掃射を受く

濱野路 大 森 孝

(一)旧南淡町の文部省施設へ出張して。

今はどちらをみても若葉が息づいて、燃えるような輝きを際だたせている。八十八夜を迎えて、世の中が一転して活気づいてみえる。つつじがあざやかに

野山に彩りを添えて、山の中腹には尚、山の櫻が咲き誇っている。素晴らしい季節だ。こんな、うつとりとする、おだやかな日々も迎えられるというのに。

でつくと、かみとおかしをもらいました。わたしは、103番でした。さいごにあるいてかえりました。へとへとでえらかつたけどのぼれてよかつたです。

青春時代を戦争という殺伐とした時間と空間の中を歩き続けた私であつたが、時たま、ふと戦中のあの緊張と身構えた一瞬を追想するきっかけがある。

顧みるのに、教職も終わりに近づいた昭和59年と、60年に、生徒の付添いで、夏季休業期間の終わりに、『郵便友の会(クラブ)』は、淡路島の南部にあつた旧南淡町の文部省管理の施設(研修に行った。京都府から

は私の八幡高校と、京都市内の伏見工業高校の2校だけだったが、大阪郵政局管内の近畿を主とする(福井県を加え)

他府県の参加各高校は本府より意外に多かった。2泊3日の日程であった。

2日目に私達が見学したのは戦後ででき上がった鳴門大橋の淡路島側に築かれた橋脚の基盤部分あたり：淡路島側の最初の橋脚部分であった。

そこで見たものは、あつと愕く、海軍に志願していたまだ少年兵だった。宝塚予科練習生達の戦死の慰霊碑だった。彼等は17才を数えて、16才もあり18才もあった。国の危急に馳せ参じた純真な10代の少年兵達の戦死の供養の碑であった。その位置は一段下がった窪地にあつて、海峡の渦へ流れる激流を眼のあたりにすることができた。

引率した男子生徒は、『これは何?』といぶかし気に私に訊ねた。私は『昔の飛行機に乗る

ための若い兵隊さんが、この海峡で、その頃のアメリカの飛行機に射たれたり、溺れたりして、死んだ弔いの石碑だよ。』と、言葉すくなく答えるに止まった。戦争で米機の掃射を身に浴びた者でなければ到底わからぬことだから。今でこそ、おだやかな現実があり、小高い崖の凹地に、碑はひっそりとたっているのだが……。

そうして青葉の炎熱の敗戦の前の日に、そのむごたらしい惨劇が目の前でおこつて、多くのあたり有為の若者の貴い生命が、紙屑のように失われて行った。惜しみてもあまりあるのだ。

(二) 体験者よりの情報。

この惨劇の一部始終は、私の年来の畏友である河原林宏平氏(京都市北区紫竹上堀川住)が、京都市内で敗戦後、復員してこの体験を膝を交えて私に語ってくれたことよつて知った。まさしく氏は『宝塚海軍予科練習生』として、京都第三中学校

より志願して、国難に立ち向かつて訓練中、鳴門海峡で運悪く惨劇の当事者となつてしまふ。全く突如、襲つてきたアメリカ戦闘機による掃射であつたという。

往時茫々。委細は大方忘れたので、機数、惨劇の日時や、友軍の救援体制など、数多く語り得ぬので不満ながら、覚えていゝる限りで記してみたい。

先ず小さな船艇を狙つての、低空よりする執拗あくなき機銃掃射であつた。限られた範囲で身をまもるため、海中に逃げざるを得なかつた。陸地に還ろうとしても、急流に流されて落差のある渦流に向かうばかり。極度の恐怖と緊張のため所謂「こむら返り」等で(下肢硬直状態)泳ぐこと叶わず、水没する者もあり、奔流との争いのため精根つきはてて水没する者、撃たれて死ぬか、衰退して死ぬか、二つに一つ。敵方の恣意。こんな絶好の餌は敵としては殆どあり得

ぬこと。(目標を正しくとらえて倒せるからである。)味方は死ぬばかり。

こんな海峡で襲われた『宝塚予科練の生徒達』は大変!土壇場での進退を求めなければならぬ。予想すらしなかつた、むごたらしい「会敵」に算を乱して、なすすべもない俛、10才代で体験する容赦のない絶体絶命。死との争い。体力と泳力ある者が生を拾う。阿鼻叫喚地獄の海峡での惨劇こそは、敗戦すぐ前の一大痛恨事であつた。

河原林宏平氏は九死に一生を拾つたのだという。国はなぜもつと早く降伏しなかつたかたやりきれない。救援もなく。ただぎせいでだけを積み重ねた鳴門海峡の惨劇はいつ迄も尾をひいて、忘れることはできない。

(平成20年5月3日記)



2008.2.17 朝日新聞

由良岳に登山案内小屋

府立大生、住民と手作り

宮津市由良の由良岳（標高640㍎）の登山道入り口に、由良地域の研究に取り組む府立大学の学生と地元住民が16日、協力して案内小屋を建てた。写真。登山ルートや山林の植生などを小

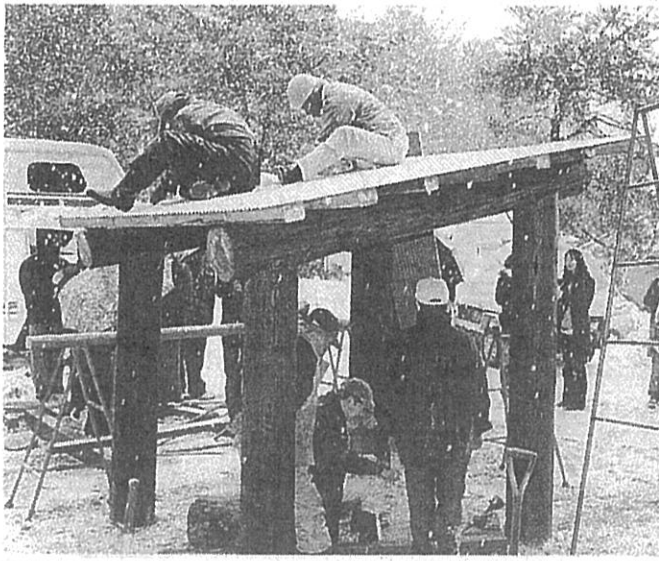
屋内の掲示で紹介し、つえも置いて帰り道にはひと休みしてほしいと、間伐材などを活用して手作りした。

府立大人間環境学部環境デザイン学科の三橋俊雄教授(58)と学生19人、

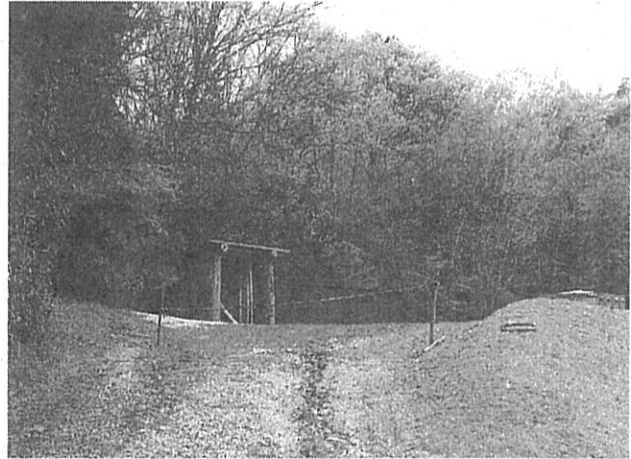
地元で大工の心得などがある住民7人が、午前9時から午後5時までかけて建てた。穴を掘って電柱の廃材を切った柱を4本立て、スギやヒノキの間伐材を学生が皮をはいで板に仕上げ、環境に優しいエコを心がけた。

三橋教授は豊かな自然と山椒太夫伝説、北前船の歴史の魅力にひかれ、10年前から由良のフィールド研究をしている。

3年前から由良での教育演習が必修科目になり、500人以上の学生が訪れている。今回は、15日から3日間の日程で学生51人が案内小屋建築のほか、鍋つかみなどのわら細工、こんにゃく作りを学んだ。



由良岳登山風景



建築中の登山小屋

編集後記

平成二十年度の公民館役員も決まり、新しくスタートしました。第四十二回由良岳登山を始めの行事として由良地区の皆様方にご協力をいただきながら、地区の皆様とともに前進してゆきたいと考えております。

国民宿舎の上に一坪の小屋が出来つつあります。

これは、府立大学の三橋教授の指導のもと、由良岳登山の基地にしようとして今年二月から少しずつ工事を進めております。完成すれば年間の登山人口の把握、登山者からのアンケートなどの調査が出来、今後の公民館の事業計画が確実なものになると考えています。この館にふさわしい名前を皆様に付けていただきたいと思っております。

(枝川)

